
幻想絶滅危惧種保存委員会

紫藤さやか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想絶滅危惧種保存委員会

【Zコード】

Z3601BA

【作者名】

紫藤さやか

【あらすじ】

井上空、能天気な看護学生。ある日背中からニコシキリ羽が生えてきて。どうなる私！って、どうにもなりません。ほのぼのラブコメを目指します。

1 チキンラーメンが食べたい

テレビの中では、メタボおじさんが一人、チキンラーメンを食べていた。

人気アニメ映画「崖っぷちのプリン」の名場面だ。
そのチキンラーメンがとにかく羨しそうなのだ。

私は口を半開きにして画面を食い入るように見つめていた。

チキンラーメンを食べてみたい。

それが、私の夢だ。
でも…。

「空は鶏肉食べちゃだめだからね。絶対！」

母がそういったから、私は鶏肉、チキンと名のつくものは今まで避けてきたのだ。

あ、「空」っていうのは私の名前。
井上空、18歳、看護学生。

ずっと祖母、母、私の女系家族だつたけれど、一昨年前に祖母が亡くなつた。その後、母が結婚し、旦那の仕事の関係で海外へついて行つちゃつたため、現在自宅で独り暮らし中である。

母が出て行つた後も、キチソとチキン禁止を守つてきた。
おそらく自分は鳥アレルギーなのだろう。

と、思つていた。

今の今まで。

2 なんじゅうじゅあ

「なんじゅうじゅあ……」

私は、がっくりと膝をつき、茫然としていた。
テレビをみていたら、突然、部屋中に白い羽毛が舞い散った。
テレビの中ではブニヨンが皿をうにチキンラーメンの汁を飲みほして
いたが、それどころじやない。

背中がズキズキと痛む。

何が……起つたの？

バサリといつ大きな羽音に振り向くと、巨大な翼が迫っていた。

ひい何コレ……つて、私の背中から羽が生えているの？？

慌てて鏡を見ると、背中から白い大きな羽がによつきり生えていた。

……何じゅうじゅあ？

嘘でしょ……？

ペタリと座つたまま動けない。

着ていたTシャツは無残に背中で破れてくる。
お気に入りTシャツが……。

そういうえば、ここ最近、妙に背中がかゆいと思つていた。
かゆいというか、熱いというか。

部屋の掃除をさぼつていたし、まさかダニー発生？？

慌てて布団を干して、掃除機をかけてみたけれど、背中のかゆみは
治らない。それどころか、背中が痛い。熱が出るとときに体の節々が

痛くなるよつた、あんな感じだつた。

ダニーの仕業ではないらしい。

これは病院に行つた方がいいかも、と思つたけれど、健康優良児の私は病院なんて歯医者に五年前に行つたきりだ。内科に行くべきか、外科に行くべきか、はたまた皮膚科に行けばいいのか。ビニシシようかな。迷つてゐるうちに、今日にいたる。

まさか、これは、いや、しかし、なぜ、ビニシシよつた?

混乱しながらも考える。

……更に考える。

- 1・自分は鳥と人間のキメラだった。
- 2・先祖代々鳥に呪いをかけられていた。
- 3・神様から天使に選ばれた。

うーむむむむ……。

3は口マンチックだけれど、自分が神だつたら、もつとピュアな子供を選ぶと思う。2の鳥の呪いなら、鳥をすつと食べずに頑張つてきた私よりも、カーネ おじさんが呪われるべきではないだろうか。では…1? 怖い。怖すぎる。

そういえば昔、母にきいたことがあつた。
どうして空にはパパがないの? と。

「パパは遠いお空に飛んでいつちやつたのよ
母は遠い眼をしてそう答えた。

パパは死んじやつて天国にいつたんだ。
幼いながらにそう解釈していたが……まさか、本当にお空に飛んで
いつたとか??

そして、鶏肉禁止の理由は……？
お母様。

もしや、私のお父様は鳥なのでしょうか。
だから、あんなに鶏肉を食べるのを嫌がったのですね。
つて、まさかそんなワケないよね？

考えたところでわかるわけがない。

「どうこう」となの、お母さん……。
母に国際電話をかけた。

『なにが？ 空、元気にしてた？』

陽気で呑気な声が聞こえてくる。

おのれ、自分だけは楽しく海外生活満喫しちゃって。しかも、旦那
とラブラブで。

「羽が。羽が生えてきたのよ。いきなり！－ 背中に！－！」

私がどると、呑気な声が返ってきた。

『あらー。パパに似ちゃったのね。成人才メデトー！』

なんですよ？

「ぱ、パパって？ まさか鳥じゃないよね？ 鶏肉食べちゃダメっ
ていいってたけど、それって……」

『はあ？ すつ』くかつ『いい天使だったわよ。なんとなく翼の生
えている生き物食べさせると共食いの気がしちゃってやー。あはは』

あははじゃないよ、まつたく。

「て、天使？ その人、もしかして、今も生きてるの？ ビニール

るの？ その人も背中に羽が生えてたの？」

勢い込んで聞くと、母は何でもない事のようにいつ。

『はえてたわよ。普段はしまつてたけど。まさか今頃になつて空に羽が生えてくるなんてびっくりねー。でも、彼がどこにいるのかは知らなーい。空がお腹にいるうちにジヨーハツしちゃつたからね！ 大丈夫よ、羽しまつとけば普通に生活できるから。あ、ダーリン、モーニン！ 空、またねー』

無情にもガチャン、と電話は切れた。

酷い。

ひどすぎる。

だーりんもーにん？

母よ、いつから外人になつたんだ。娘のピンチよりダーリンですか。まあ、そりやあ、恋人と上手くいけばいいと応援もしたけれど、しましたけれど、でもちょっと。

よく考えてみたら、私は父のことをまるで知らない。

パパは遠いお空に飛んで行つちゃつたのよ。

昔から母はそういうていた。母は一切、父の話をしなかつた。

だから、私は死んじやつて天国にいるのだ、と勝手に解釈していたのだ。

普通、そう思うでしょ？

まさか、本当にお空を飛んでいたとは。

もしかして、自分はハーフなのでは、と思ったことは何度かあった。日本人顔で、母親に似ているが、髪の色や目の色が茶色い。特に後ろから見たときの髪のふわふわ加減と頭の形は欧米系っぽく見えるらしい。あくまで後ろ姿限定だけど。それにしても、母が惚れっぽいのは知っていたが、相手が外人ではなく、人外だったとは。

しかもジョーハツつていつたい。

これからどうなるのだ、私。

3 泥棒さんのようひ

これからどうなるのだ、私。

そう思つたが、どうにもならなかつた。

とつあえず、寝よつと思つて寝て（羽が邪魔で寝にく）、とつあえず、起きようと思つて起きたけれど、羽は生えたまま。不幸中の幸いは、看護学校が夏休みに入つたばかり、とことんじだらうか。

でも、夏休みはバイトの予定だ。

パン屋のバイトの面接は明後日だつたはず。

でも、この恰好で外に出るのは…。

こんなに破れたTシャツで外に出るのはちよつと恥ずかしいやなくて。

とつあえず、家中をひつかきまわし、大きな唐草模様の緑色の風呂敷を引っ張り出してきた。
これで、羽をつつめば…。

ものすごく苦労して羽をスッポリと風呂敷でつつみ、荷物のようつぶ結ぶ。

昔話に出てくる絵に描いた泥棒さんのようだ。

鏡の前でお縄頂戴のポーズをとつてみる。なかなかいける。
これで、外に出ることにした。

Tシャツの破れた部分は風呂敷で隠れているし。
まずは、ごほんの調達だ。

「あー、空ちゃん、お買いもの？　ずいぶんとこっぽい買つたのね

」

わざわざ、すぐに近所のオバちゃんに見つかる。

「ハイ。彼氏ができたので、がんばってこっぽいお料理作る」と云ふ。したのです。

言い訳も完璧。

特に怪しまれた様子はないな。よしよし。

「お、空ちゃん、家出？」

「ウン、おらこんな街ヤダ。東京さでるだ」

近所の自転車屋のオジチャンにも見つかるが特に問題なし。楽勝。うじうし。

「ねむ。それなら、この自転車に乗つて東京を行け。8万円のところ、7万8千円こまけてやる」

オジチャンを無視してコンビニでカツブメン等を買ひこみ、とりあえず帰ることにする。お腹が空いた。早くカツブ麺を作ろつマルシャン 赤いきつね

普段はお鍋でつぐる5個パックのインスタントラーメンがスタンダードだが、今日は奮発。

いろいろ買ひ込んだ。

これから、どうするかな。

お父さん探すにも手がかり少なそうだよなあ……。

いろいろ考えながら歩いていると、パララカラ、と原付が私の横を走り抜け、前で止まつた。

「井上空か？」

いきなり原付の男が話しかけてくる。

ヘルメットをかぶっているので、顔がよくわからない。

姿勢が良く、ガタイがいいせいだろうか。原付がやけに小さく見える。

「えと、はい」

誰だけ、と思いながらも、相手も私の名前を聞いているから親しい人間ではないのだろう、と思い直す。

「乗れ」

男は原付の後ろをアゴで指していく。

「……」

カツコイイ大型バイクの後ろならまだしも、原付の後ろってねえ？
っていうより、知らない人についていつちゃ駄目だし。

男がヘルメットを脱いで、私に放つた。

ヘルメットが宙に弧を描くその一瞬に、膨大な思考をした。

さつきまで見知らぬ男がかぶっていたヘルメットをかぶれというのだろうか？ なんとなく汗臭そうで嫌だ。それよりも、男が思った以上のイケメンなのに驚く。が、そのイケメンがつるつぱげなのに更に驚く。ハゲでもイケメンはイケメンであることにおまけに驚く。眉毛が凜々しいではないか。鋭い眼光。が、ハゲの年齢はよくわからぬ。ワイルド系にみえるのはハゲゆえだろうか。

思わずヘルメットをキャッチする。

「いいから、早く乗れ。俺は怪しい者ではない」

十一分に怪しいハゲのイケメンがいった。

「早く乗れ。時間が無い」

男が焦つたように言い、空を見あげた。つられて上を見て、初めて気が付いた。

電線にびっしりとカラスが止まっている。

しかも、カラス達は冷たい眼でじっと私を見ていた。

……なにこれ？

ゾッとして、あわてて臭そうなヘルメットをかぶると原付の後ろにまたがり、男につかまつた。ふわりと汗ではないなにかの香りがした。

パララララ。

すぐに原付は走り出した。

私が小柄だからかもしれないが、思つたほど原付の後ろは怖くなかった。

どんどん細い道へ、山の方へ入つていく。

良く知つている場所ではあるが、流石に不安になつた。

「ねえ、どこへ行くの？」

男は何もいわずに原付を走らせる。

ノーヘル男の後頭部がまぶしい。
どうしよう。

もしかしたら、悪い人なのかもしない。

若禿かと思ったけれど、もしかしたら、その筋の人なのかもしない。

マンガで見るヤ ザの脇役の一人は、何故か絶対にハゲだ。

さつきちらりと見た顔もイケメンではあつたけれど、妙な迫力があつたような気がする。ハゲ効果かもしねりいけれど。

これは、やばいかもしない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3601ba/>

幻想絶滅危惧種保存委員会

2012年1月10日23時45分発行